

中国共産党スターリン主義による 学生・労働者・市民の大虐殺を弾劾する

四月十五日、前総書記胡耀邦は「中国政治腐敗の原因は、自分にあり、党中央にあり」と言い残して急死した。「社会主義」建設の行きすぎと政治、経済不安の中で腐敗と汚職が進む中国に對して、この胡耀邦の発言は学生・民衆の心をとらえ、「官僚主義反対」「政治腐敗反対」の運動の火に油をそそぐ役割をはたした。

五月十七日、胡耀邦追悼集会には首都北京天安门広場には百万を超える民衆が集まり、この日を期して連日数万〜百万人が天安门広場を埋めつくしていった。民主化要求の闘いは、中国のみならず、世界の注目を一手に集めるほどまでの高まり

を示していった。

こうした闘いに恐怖した中国スターリン主義政府官僚、とりわけ鄧・季鵬は戒厳令を発動し、圧殺にのりだした。だが、テレビでも報じられたように、辻々で民衆が「人民解放軍」をとり囲み、説得し、北京から撤退させていった。学生と「解放軍」との出会いの光景は、見ている者の感動をさそった。そこには「解放軍は、人民に銃を向けない」という人民の「解放軍」に対する絶対的な信頼感があつた。

だが、信頼は裏切られ、六月四日未明、鄧・季は私軍とも言える二七軍を投入、天安門に突入し、無武装の学生・民衆に對して無差別発砲し、五千

名とも言われているほどの大量虐殺を強行・弾圧した。それ以降も全国各地で大弾圧が続いている。今回の大虐殺は、二〇世紀後半史上に汚点を残す大事件である。

しかし、韓国・光州蜂起がそうであったように、中国の学生・人民は必ずやこの試練をのりこえて不死鳥のように再びはばたくであろう。そして圧政中国スターリン主義を打倒するであろう。それにつけても「天安門事件」を口実に、マスコミは、社会主義自由がない弾圧が悪いというレッテル張りを行って

いるが、われわれは、この反共宣伝を絶対に許してはならない。そもそも社会主義とスターリン主義

スターリン主義とは何か

一九一七年十一月、レーニン率いるロシアにおいて、人類史上初の社会主義革命が成功し、ソ連邦を建設した。「帝国主義のクビキから、全労働者階級の解放を」という

主義の名のもとに、ソ連の権益を他のすべてに優先させることを通して誕生しつつあつたヨーロッパ各地における社会主義革命の芽を次々と自らつみとり、意図的に敗北させる政策にでた。そもそも社会主義とは地球的規模でしかなりたらず、まして一国だけで社会主義を建設しようとしても論

理的にいつて無理があり不可能なのである。こうした社会主義革命から発生し、しかし世界革命を放棄(一國社会主義)したときから、社会主義ならざる「社会主義」になることをスターリン主義と言う。社会主義の変節形態をスターリン主義と言うことができ

義(解説あり)とは全く別個のものであるという認識をもたなくてはならない。ソ連にしても中国にしてもあるいは日共についても、これらは社会主義でもなんでもない、スターリン主義であるということだ。われわれの闘いは、米・日などの帝国主義に反対するものであり、ソ連・中国などのスターリン主義にも反対

するものでなければならぬ。中国学生・人民の死に深い哀悼の意を表するとともに、国際連帯をかけて中国スターリン主義弾劾・打倒の闘いにたちあがろうではないか。日本労働者人民の真の連帯をかけて、自民党独裁体制を打倒するため闘うことこそ、われわれの立場である。

狭山第二次再審勝利を!

— 5・23 狭山中央決起集会に参加 —

五月二三日、東京日比谷野外音楽堂において、谷野外音楽堂において、一石川一雄氏不当逮捕二六ヶ年糾弾、狭山再審要求、八九政治決戦勝利、五・二三中央決起集会」が開催された。集会には青年部動員で六名が参加した。この日は地労委闘争も同時に闘われた。全体では約一万人の部落大衆と共闘団体が参加した。この日の集会のハイライトとして、再審無罪判決

五月二三日、東京日比谷をかちとり生還した赤堀政夫氏と免田栄氏が特別アピールを行なった。石川さんの獄中からのアピールが読みあげられた。「不屈の精神は衰えることが開催された。集会にはとなく、増々闘争心を露にして闘って」いることが述べられ、天皇裕仁弾劾の檄をばった。権力の差別裁判を許さず、狭山第二次再審勝利にむけ、小雨ふるなか、都内をデモ行進した。

6.17
清算事業団地労委
10時から、千葉県地労委で
前回のつぎ、証言です